刀剣界

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

2021.5.15　No.59

発行人　深海　信彦
発行所　全国刀剣商業協同組合　編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2－18－10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601　FAX:03(3205)0089
http://www.zentosho.com/

第59号編集担当　赤荻　稔　飯田　慶雄　伊波　賢一　大平　岳子　大平　将広　嶋田　伸夫　清水　儀孝　生野　正　瀬下　明　土子　民夫　綱取　譲一　土肥　富康　服部　暁治　深海　信彦　松本　義行　冥賀　吉也　持田　具宏

刀剣類の評価査定と買い入れに応じます

ご自宅に伺っての評価査定作業

組合では常時、一般の方からの刀剣類の評価査定等の依頼に対応させていただいています。また、所有者の希望があれば、その場で買い入れもさせていただきます。

刀剣を相続する方々には共通の不安があるようで、相続した刀剣を錆びさせてはいけないという思いを重く感じ、組合に相談を寄せられます。そのような時、手入れの仕方をご指導することもあれば、また必要に応じて研師の方をご紹介することもあります。

買い受けた刀剣類は、交換会を通して組合員に渡り、そこから新たな愛刀家の皆さまに譲渡されていきます。この一連の流通により、適切に保存されていくことにもなります。

「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」の総会にオブザーバーとして参加した折に、議員のお一人から「刀剣の売買が活発に行われ、流通量が増大することが最も重要ではないか。伝統工芸の継承や地域振興は、刀剣流通すなわち売買が盛んになることと深く関係している」とのご意見を伺いました。

日本刀は日本人の精神文化と深く結びついていることから、刀剣の流通が拡大し鑑賞される機会が増えれば、他の芸術・文化財にも好影響を及ぼすことでしょう。

この三月も、刀剣に関する当組合への相談が多数ありました。そのうち、東京都教育委員会よりご紹介いただいた方には、清水専務理事と筆者で伺い、評価査定を行った上で十数振の刀剣を購入させていただきました。

また、他県で多数の刀剣を相続された方の評価査定を、公益財団法人日本美術刀剣保存協会（酒井忠久会長）よりご紹介いただきました。このように年々、公的機関・公益法人等からご紹介いただく件数が増えてきています。

刀剣を所有されている家庭や個人の相談に応じ、いささかでもお役に立てることは、当組合存立の意義でもあります。どうかお気軽にご連絡くださることをお待ちしております。

この度ご紹介いただきました各機関の皆さま方にはあらためて感謝申し上げます。

（嶋田伸夫）

大刀剣市は11月19～21日に開催

感染防止に万全を期しつつ

皆さま方には平素より当組合の諸活動に深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

恒例の組合事業の一つ「大刀剣市」につきましては、組合関係者はもとより、内外の多くの愛刀家からもその開催に関心が寄せられていますが、去る二月十七日の理事会において慎重審議の結果、本年の開催を決定しました。日程は十一月十九日(金)～二十一日(日)の三日間、会場は従来同様に東京美術倶楽部です。

ご承知のように、昨年は新型コロナウイルス感染症の全国的な流行により、三十二回続いた大刀剣市を安全と安心の観点から中止とさせていただきました。ただし、大刀剣市に初回から後援を頂いている産経新聞社が呼びかける「明美ちゃん基金」には、継続して浄財を寄付いたしました。

今年は既にプロ野球や大相撲が、入場者数の制限や可能な限りの感染対策をした上での開催を実施しており、今夏には東京オリンピック・パラリンピックも開催されます。さまざまな感染対策と併せて、ワクチン接種も次第に普及していくことでしょう。

しかしながら、新型コロナウイルスの終息にはまだ時日を要しそうで、今年の大刀剣市はコロナ禍の中での開催を覚悟しなければなりません。感染防止対策に万全を期し、皆さまが心待ちにしている大刀剣市にしなければなりません。

これまでの例に倣うと、実行委員会を五月の総会後に立ち上げ、六月初旬からの四カ月はカタログ制作に関わる写真撮影や編集の作業が続きます。これらを安全に遂行するのは、容易ではありません。

来場されるお客さまは例年、三日間で三千名を超えていましたが、今やその数は予想し難く、また入場制限などの対策が求められる可能性もあります。

これから実行委員会において具体的な準備を進めていきますが、今年は過去の大刀剣市と同じようにできないことも出てくるでしょう。コロナ禍の下での大刀剣市は、コンパクトな大刀剣市に見直す必要もあるかもしれません。

会場で皆さまと笑顔でお会いできますことを楽しみにしながら、入念な準備に取りかかることといたします。（「大刀剣市」実行委員長・清水儀孝）

東京美術倶楽部を会場として例年開催してきた

刀剣・書画・骨董
和敬堂
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
http://wakeidou.com/

日本刀 販売 買取 委託
e-sword イソード
(株)e-sword (イーソード)
平子誠之
〒350-1115 埼玉県川越市野田町 1-4-19 1F
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407
http://www.e-sword.jp
日本刀 イーソード 検索
mail:info@e-sword.jp

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
(株)城南堂古美術店
代表 田中勝憲
〒153-0051
東京都目黒区上目黒四－三一－一〇
TEL ○三－三七一○－六七七六
○九○－三二○八－九六一二
FAX ○三－三七一○－六七七七

日本刀の江州屋
名品・名刀を販売
店主 小暮 舜一
〒529-1315
滋賀県愛知郡愛荘町沓掛80－1
TEL 0749-42-2736
携帯 090-3162-7641
http://www.goushuya-nihontou.com

アオバ企画(株)
高橋 一
〒130-0012
墨田区大平四－一九－二－一三〇八
TEL ○三－三六二二－二三二一
FAX ○三－三六二二－二二五一
メール aobakk@pj8.so-net.ne.jp

令和3年5月15日発行（隔月刊）　刀　剣　界　第59号

特別国際種事業者の登録有効期限（令和3年5月31日）にご注意ください！

平成29年に改正した絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成四年法律第七十五号）（以下、種の保存法と呼ぶ）により届出制から登録制度に移行した、ぞう科の牙に係る特別国際種事業について、平成11年３月18日から平成30年５月31日までに届出をした事業者は、令和３年５月31日に特別国際種事業事業者としての有効期限を迎えます。

対象となる事業者の届出時の住所宛て（変更届により住所変更の申請をされている場合はその住所宛て）全てに、種の保存法第33条の15に基づく登録機関である一般財団法人自然環境研究センターより、更新のお知らせの発送が完了しております。ところが、約2000件ほどが宛先不明で返送されてきました。郵便が宛先不明等で返却されている事業者一覧を同センターウェブサイトに掲載していますので、更新希望の方はご確認ください。

宛先不明の理由はさまざまかと思いますが、継続的に象牙を取り扱っている者が、有効期限を知らずに更新手続をしないまま、引き続き６月以後も取引をされますと、違法状態となってしまいます。

一般財団法人自然環境研究センターウェブサイト内のお知らせ
「登録番号がＡ、Ｓ、Ｔから始まる事業者様へ」
http://www.jwrc.or.jp/service/jigyousha/index.htm

※注意点
- 有効期限までに更新手続き（手数料：32,500円）を行わないと、特別国際種事業者としての登録が失効し、その後は象牙製品の譲り渡し等ができなくなります。
- 失効してしまうと、その後は「更新」ではなく「新規登録」扱いとなり、新規登録にかかる手数料（33,500円）の支払い及び登録免許税（90,000円）の納付が必要となります。
- 既に事業を実施していない場合には、在庫の譲り渡しを済ませた上で、廃止届を提出してください。廃止届提出後、または有効期限までに更新手続きをしなかった場合、それ以降は在庫の譲り渡しができませんので、有効な登録がなされている間に適切に在庫整理を実施してください。

（経済産業省製造産業局生活製品課）

象牙製品等の輸出入防止の徹底を

経済産業省・環境省から当組合へ確認要請

種の保存法に基づいた特別国際種事業の登録更新の必要性は、前号で案内しているが、去る四月二日、経済産業省製造産業局生活製品課から、ワシントン条約によって国際取引が規制されている象牙製品等の販売時の対応について、次の二点の要請があった。正式な要請文書は「環自野発第２１０３２６２号」。

一、象牙製品等の国外持ち出し防止対策の徹底

ワシントン条約適用前に取得した証明のない象牙製品等は、「外国為替及び外国貿易法」により国外の持ち出しが禁止されている。登録業者が国内で象牙製品等を販売することは法律を遵守した方法なら認められているが、いずれ外国へ持ち出すことは原則できない旨の説明の徹底をお願いする。

二、新たに製造された象牙製品の取扱いについて

適正に取得された原材料から製造された象牙製品は、標章を付すことによりその正当性を証明することができるので、新たに製造する際は当該標章を取得し、また販売する際には疑わしき製品を扱わないようにする。

……

オリンピック、パラリンピックで海外からの観客は入国できなくなったが、関係者の入国はある程度見込めるので、その対策と言えよう。

ちょうど四月十日の新聞記事に、今も象牙の違法取得が続けられ、国内流通を許可している日本が注目されているとの掲載があった。われわれの業界ではあまり関係なさそうであるが、細かい点に注意を払い、義務を果たしていきたい。

（伊波賢一）

コロナ禍の最中の組合

生野　正

交換会や今後のことについて、近ごろ考えます。

毎月の交換会会場で、組合員の面々が顔を合わせます。常連ばかりでなく、入会間もない若い世代や、遠方から高い経費をかけて来られる方もいます。そこでは取引が行われるだけでなく、親睦を深めたり、情報交換の場となる側面もあるでしょう。

組合ではこれまで、新型コロナウイルスの感染予防に気を配り、一人の感染者も出さないように市場を運営してきました。しかし、昨年は緊急事態宣言の発出を受けて二度休会した後、夏ぐらいから陰りが見え始めてきました。

出品される品物が少なくなり、それは組合ばかりでなく、どこの市場も品不足で早く終わると聞きます。

品物が少ないわけですから出来高も少なく、主催者が受け取る歩金も自ずと低迷しています。

理事会ではしばしばこの問題を取り上げ、何とか打開する方策はないか、検討を行いました。

しかし、このようなコロナ禍の状況が続いていく限り、参加者と出品数・売上高の好転は望み難く、赤字運営になることは避けられません。組合員・賛助会員の皆さんから会費を預かり、運営を託されている執行部としては、このままの状態で交換会を続けることはできないという結論に達しました。不本意ではあるが、毎月の交換会を年二回の開催とし、その二回で最大限の成果が得られるよう注力することになりました。

コロナが終息した時には、当然、あらためての検討が行われるはずです。

その間、組合員の皆さんにはできるだけ不都合がないようにと、希望者については、他の交換会への受け入れを要請しました。

今大切なことは、組合を守っていくことです。組合はみんなの財産です。刀を生業とするわれわれは、政府公認の組合に属していることに、大きな価値があるのです。その組合は、組合員の社会的地位と生活の向上を図り、業界の安定と発展のために機能する組織でなければなりません。

現在の組合の事業では、教育委員会や財団法人など公的機関のご協力も相まって、刀剣類の評価査定・買い取りのウエートが高まってきました。依頼があれば、担当役員が地方出張もいとわず、誠意を持って対応しています。そのおかげもあって、今期の決算は黒字となりました。

今後の組合交換会は、これらの買い取り品も多数出品されるはずですから、ご期待ください。

今しばらく、コロナに負けず頑張りましょう。

組合こよみ（令和３年３～４月）

３月12日　刀剣評価査定のため服部副理事長と清水専務理事が横浜市に出張

17日　東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加52名、出来高14,595,000円

17日　東京美術倶楽部において第５回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・猿田理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・大西監事

17日　東京美術倶楽部において「刀剣界」編集委員会を開催（第59号企画）。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・持田理事・土子民夫氏

25日　刀剣評価査定のため清水専務理事と嶋田常務理事が国分寺市に出張

25日　特別国際種事業者の登録更新手続きを完了

30日　深海理事長・清水専務理事・飯田相談役が日本美術刀剣保存協会を訪問

30日　深海理事長・清水専務理事・飯田相談役が全国中小企業団体中央会を訪問

４月２日　経済産業省製造産業局生活製品課・井澤俊和氏が日本刀剣に来社、「来日外国人に象牙製品の販売をしないこと」の広報を依頼される

６日　深海理事長・服部副理事長・大平理事が産経新聞社を訪問、「明美ちゃん基金」に30万円を寄付

13日　組合事務所において常務理事会を開催。出席者、深海理事長・服部副理事長・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・逸見税理士

16日　東京美術倶楽部において赤荻監事と大西監事が監査を実施

16日　東京美術倶楽部において第35期第１回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・猿田理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・吉井理事・赤荻監事・大西監事・飯田相談役・笠原泰明氏・逸見税理士

16日　東京美術倶楽部において「刀剣界」編集委員会を開催（第59号初校）。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・瀬下理事・松本理事・持田理事・土子氏

27日　銀座会議室において「刀剣界」編集委員会を開催（第59号再校）。出席者、深海理事長・伊波副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・生野理事・土子氏

『東京新聞』令和３年３月23日

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 飯田高遠堂
代表取締役 飯田慶雄
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
http://www.iidakoendo.com

刀剣古美術
三峯美術店
町田久雄
埼玉県秩父市野坂町一－十六－二
西武秩父駅連絡通路 町久ビル内
TEL
FAX ○四九四－二三－三○六七

令和3年5月15日発行（隔月刊）　刀　剣　界　第59号

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、**記事を募集しています**。ニュースや催事情報、イベント・リポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

イベント・リポート

刀剣博物館「埋忠―桃山刀剣界の雄」

多角的なテーマで埋忠の全容に迫る意欲展

埋忠一門は、京都で桃山時代から江戸時代前期に、埋忠明寿を中心に、作刀・刀身彫刻・鐔などの刀装具、古名刀の磨上、茎に金象嵌銘を入れる仕事、刀剣の記録などに携わった希有の存在である。しかも門人には佐賀鍋島家の刀工肥前国忠吉や、福島正則に仕えた肥後守輝広もいた。

刀剣博物館での今回の企画展は、大阪歴史博物館ほか、全国の博物館・美術館、そして民間の所蔵者や団体の協力を得て開催され、埋忠の実像に迫らんとする、実に意欲的な特別展であった。

展示室に入ると明石国行の太刀（国宝）、長船光忠の太刀（重要美術品）、当麻国行の太刀（国宝）など名刀が並んでいる。見れども尽きない魅力に満ちたこれら名刀に感心しながら進むと、天正年紀の城州埋忠の短刀に続き、慶長年紀の彫身の作が続く。

龍図の彫りの片切刃造の短刀は、図鑑や現代刀匠の写し物でしか見たことのない伝説の逸品。上り龍・下り龍、火炎不動は、伸びやかで闊達な鑿使いが効いて生気に満ちている。それらの彫りを前に、ふと以前見た肥前国忠吉の片切刃造の短刀の樋中の彫りが思い出された。あれもやはり埋忠系の彫師であろうか。彫師については、まだまだ不明な点が多い。今回の展示が彫師の研究につながればよいと切に思った。

平台の展示ケースで明寿の鐔を見た。美しい真鍮地に独特の平象嵌で鳶、九年母、伯樹等の図が描かれた鐔は神々しく輝いていた。埋忠彦兵・七左衛門・重義ら一門の作品も、形状、図柄、色金の使い方が斬新で垢抜けていた。「琳派」の意匠のすばらしさ、色の美しさは実見しないと味わえない。来てよかった……しばし時を忘れる。

埋忠一門は、磨上や金象嵌など携わった仕事に関する記録を残している。いわゆる『埋忠銘鑑』である。この展示では、名物寺沢貞宗（国宝）、名物桑名江（重要文化財）、名物稲葉江（国宝）など宝物とも言うべき名刀が埋忠の記録とともに展示されていた。すごいことである。

埋忠鎚も、台付鎚が見えるように展示されていた。実は、台尻に「うめたゝ壽齋彦一入」などと針で書いたような細字で刻されているのである。展示は工夫されていた。が、肉眼ではよくわからなかった。残念！

展示図録もお勧めである。写真と解説、そして論文が載せられている。吉原弘道氏（九州産業大学）は、古文書学的手法と先行研究の検討で埋忠家の実像に迫っている。これぞ文献史学的なアプローチの見本とも言うべき論考であり、さすが、というほかない。

内藤直子氏（大阪歴史博物館）は本阿弥家と埋忠の関係、鎚の針書に見られる片岡氏、そして埋忠家の栄枯盛衰を熊倉功夫氏の美術史研究を踏まえて、実に壮大な展開。久保恭子氏（刀剣博物館）の論文は、作品と記録に基づき、埋忠明寿の実像に迫る試み。明寿が作品製作と営業（対外関係）を、寿斎が象嵌・金具・記録を分担したという。果たして諸大名家といかなるやり取りがあったのだろうか。今後の研究が楽しみ。何より久保氏の埋忠明寿への愛情、慈しみのような気持ちが感得され、すこぶる好感を持った。

たくさんの名品を集めての特別展は過去にも多々あった。が、刀・鐔・鎚・彫刻・記録と多岐にわたる切り口で、いまだにわからない点も多い埋忠に迫るという、今回のような企画展はかつてなかったのではあるまいか。

本当は少なくとも二回は行くべきであった。実際、二回以上行った人もいたらしい。が、筆者には難しかった。それが心残りである。地方の友人たちの中には上京を断念した人もおり、一回でも観覧できたのは幸運であった。

今回の展示を構想・企画・実現した博物館・美術館関係の皆さん、本当にお疲れさま。そしてありがとう。

（小島つとむ）

埋忠明寿の彫物について

橋本琇巴（刀身彫刻師）

新刀期より前の古刀期には、戦に明け暮れていたために生死の信仰の対象として、また戦そのものの表現として三鈷剣に龍が巻き付いて呑み込もうとしている様子の倶利迦羅が多く彫られていました。

慶長になって江戸幕府が開かれたころ、埋忠明寿が宝珠を追う龍を彫っています。日本刀の歴史の中で最初に彫られた珠追い龍であると思います。これより以前の古刀期には、単独での龍の彫りは見つかっていません。

新刀期になって彫物が装飾的になったと言われていますが、それは表面的な、見た目の変化を述べているだけです。

江戸時代の中期になって簞笥が使われるようになりました。それ以前は戦が続いていたので、落ち着いて住んでいることができなかった。戦が始まると、人々は巻き添えを食わないように直ちに逃げなくてはなりません。着物などは長持ちに入れ、それを担いで逃げていました。簞笥が使われるようになったのは、戦がなくなり、逃げ回る必要がなくなったことを意味しています。

いつの時代でも、刀に彫物をするということは、思いを込めた願い事が彫られていると思います。新刀期になって戦がなくなったことにより、人々の生活環境も変化し安心感も生まれ、それに伴って古刀期と異なる願い事が生まれてきたと思われます。

今回展示された埋忠明寿の彫りは、宝珠を追い求めている龍です。戦ばかりだった古刀期とは違い、新しい安定した時代に合った彫りになっています。

宝珠とは宝の珠であって、幸せになりたいとか裕福になりたいとか安定した生活を送りたいとの願いを表しています。宝珠は、何事も意のごとくかなえてくれるシンボルでもあります。

明寿の彫りが研ぎ減ってしまっているので、鑿で少し彫り直してほしいと、今は亡き師匠の苔口仙琇に仕事の依頼がありました。刀身彫刻の第一人者であった師は、「明寿は鑿の赴くままに自由に彫っている。それに他人が手を入れることは難しいから、やめた方がいい」と、依頼を断りました。

埋忠明寿の彫りは、時代の開放感に合わせて鑿を自由に動かしているように思えます。また初めて彫る単独の龍なので、どのように彫らなくてはならないとの基準もなく、思いのままに彫り上げた龍になっています。

★橋本琇巴先生にあえて埋忠明寿の珠追い龍の彫りについての見解を書いていただいたのだが、先生のおっしゃる通り「わかる人がわかればいいんだよ」の仕上がりになっています。この文章、ぜひもう一度読み返してみてください。

（持田貝宏）

第11回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」の開催について

（公財）日本刀文化振興協会

東京展会場の明治神宮宝物殿

刀文協は令和３年度の公益目的事業として、長野県坂城町ならびに坂城町鉄の展示館との共催により、第 11 回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」を開催します。今回は、前期（長野・坂城町鉄の展示館）と後期（東京・明治神宮宝物殿）に分けて巡回展とし、出品作品を広く刀剣ファンの皆さまにご覧いただけるように企画しました。

昨年 11 月に鎮座百年大祭を終え、本年、宝物殿竣工 100 年を迎える明治神宮では、記念として公開イベントも計画します。

本展は大臣賞をはじめ各賞をもって優れた作品を顕彰するコンクール形式とするとともに、併せて、当協会の会員・非会員であることに関係なく、日本刀製作に携わる全ての職方の皆さまの成果を広く一般に公開し、日本刀文化の振興を図るものであります。ご好評をいただいた前回の実績を踏まえ、今回もさらに充実した内容を期待して、作品の審査を受け付けています。

なお、今回も作刀・刀身彫刻／研磨／刀装の３部門のほかに、特別公開部門として、“Sword Oshigata Art”部門を設けています。

〈会場・会期〉

○前期：坂城町鉄の展示館
〒389-0601 長野県埴科郡坂城町坂城 6313-2
7 月 22 日㈭～8 月 29 日㈰

○後期：明治神宮宝物殿
〒151-8557 東京都渋谷区代々木神園町 1-1
11 月 7 日㈰～12 月 19 日㈰（予定）

NEWS & TOPICS

備前長船刀剣博物館名誉館長に成通グループ代表・千原行喜氏が就任

備前長船刀剣博物館（白髭修一館長、岡山県瀬戸内市）の名誉館長に成通グループ代表の千原行喜氏が就任し、このほど武久顕也瀬戸内市長から館長就任に当たっての委嘱状と盾が授与された。任期は、令和三年四月一日から五年三月三十一日までの二年間。

名誉館長への就任は、瀬戸内市が立ち上げた「山鳥毛里帰りプロジェクト」に千原氏が賛同し、その一環であるクラウドファンディングに多大な協力をした功績に対するもの。

同プロジェクトは、刀の購入額五億円をふるさと納税を利用した浄財で集めるという全国的にも例の少ない大規模なものであり、目標額は達成され、山鳥毛は備前市に納められた。

なお、国宝の山鳥毛は、文化財保護法により年間延べ六十日間しか展示できないことを受け、千原代表は、クラウドファンディングの返礼品として受け取った山鳥毛の写しを備前長船刀剣博物館へ寄託、現在、展示に供されている。

成通グループは、岡山県を主とする山陽地方を中心に娯楽・保養施設などを経営する三十以上の企業で構成され、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいる。売上高は一五三八億円、従業員数は一〇八一名（いずれも二〇二〇年三月、グループ合計）。千原氏の個人的な寄付は三三〇〇万円。

左から武久市長・千原名誉館長・白髭館長

令和3年5月15日発行（隔月刊）　刀　剣　界　第59号

刀剣類の輸出入について　第一回　輸出編

大平　将広

■ワクチン接種が始まり、コロナ禍にもようやく出口が見えてきた昨今ではあるが、刀剣の流通は依然として停滞しており、海外の愛好家との交流には欠かせない刀剣の輸出入は、以前より不便である。ここでは筆者の経験を踏まえ、これまでの流れを振り返りながら、今後の対策を皆さんと共有していきたい。

◎最も身近な日本郵便のＥＭＳ

十年以上前は日本郵便のＥＭＳをはじめ、外資系で言えばＦｅｄＥｘ（以下Ｆ社）、ＤＨＬ（以下Ｄ社）、ＵＰＳ（以下Ｕ社）など、さまざまな運送会社による刀剣の輸出が可能であった。しかし、イスラム国等のテロ集団の脅威により各社の態勢は大きく変わり、規制の一歩を踏み出した。

われわれの業界においては、美術品としての要素が主な刀剣だが、世間一般的にはまだまだ武器としての要素の方が大きいようで、この事件以降、刀剣の輸出にはさまざまな不都合が生じた。

それまでは送料重視ならＥＭＳ、ＥＭＳで送れない地域、もしくは顧客からの要望があれば少々値は張るがＦ社を利用するというのが通例であった。

ＥＭＳは一番早く届く航空便サービスであるが、独自の飛行機便を持たず、世界各国の航空会社と提携して旅客機の空いた手荷物スペースを利用している。

刀剣を輸出する場合、古美術品輸出鑑査証明書を取得し、インボイス（送り状）に〝Antique Japanese Sword—over 100 years old（一部の現代刀を除く）〟と記載することが一般的だ。

ＥＭＳで刀剣を輸出する場合は三つの条件をクリアしなければいけない。

一つ目は、輸出しようとするその時に、ＥＭＳがその国への航空便と提携をしているかどうか、つまりＥＭＳで荷物が飛ぶ国であるかどうかである。

ＥＭＳはウインターシーズン、サマーシーズンと年二回、各社への提携の更新がある。その更新により、例えばアメリカなど日本との航空便の本数の多い国宛てであれば問題ないが、そうでない場合、以前は輸出できた国なのに今ではできない、またその逆の現象が発生するのである。

二つ目は、提携している航空会社が、刀剣を貨物として受け入れるかどうか。ＡＮＡやＪＡＬは当然問題ないが、刀剣を貨物として受け入れしている会社は少ない。

五年以上前に筆者が日本郵便に電話で確認した際には、ＡＮＡ、ＪＡＬのほかに五、六社程度であるという話であった。

三つ目は、直行便であるかどうか。経由便だと、残念ながら受付できないとのことである。

この三つ全てをクリアして、ようやくＥＭＳで刀剣の輸出ができるのである。

ＥＭＳは基本的に重量計算のため、箱の大きさの割に軽い刀剣の送料は、例えばアメリカに刀一振を送っても一万円前後である。

なお、大前提として宛先の国が刀剣の輸入を許可しているかどうかも問題である。中国（香港を除く）・ロシアなどの共産圏の国は、武器になり得るものを国民に持たせたくない傾向にあるため、刀剣はおろか、模造刀でさえ輸入禁止である。

刀剣輸出の予定があり、ＥＭＳが使えるかどうかを確認したい場合は、国際郵便局に電話して、近日中にどの国に何を送るかを伝えれば、その日のうちに可能かどうかの回答がもらえる。

◎配送の丁寧なＦｅｄＥｘ

ＥＭＳでは飛ばないとなると、多少値段は高くなるが前記三社のいずれかを選ばざるを得なくなる。

Ｆ社・Ｄ社・Ｕ社それぞれに独自のルートと運送機があり、いわゆるドア・ツー・ドアのサービスで、集荷から宛先に届くまでを一括して管理している。

送り主が法人か個人事業主かで対応が変わる場合がある。法人だと各営業所が付き、綿密な相談ができるが、個人事業主の場合には一般的なコールセンターでしか対応してもらえないケースが多いようだ。

配送料に関しては、出荷量に応じて割引率が決まる。数か月に一件程度ではさほどの割引は得られないであろうが、一月に数件あれば50％以上は割引される印象を受ける。70～80％までいけばＥＭＳに近い金額になるようだ。

Ｆ社は配送の丁寧さから特に人気があり、日本で言えばヤマト運輸的ポジションである。対応している国・地域もＥＭＳより広く、これまで頻繁に利用していたのだが、テロの影響により、貨物としての刀剣の取り扱いを中止してしまった。これには多くの業者が頭を抱えた。

インボイスの輸出品目詳細に、刀剣ではなく美術品であるとかの内容にすることによって、何とか送る（当然、輸出鑑査証明書の処理はする）という苦しい回避策を講じていた業者もあったと思うが、決して安全と言える方ではなく、しばらくは暗中模索が続いた。

Ｆ社が刀剣貨物の取り扱い中止になってからはＤ社を何度か利用していたが、Ｆ社の後に続く形となり、同じく利用回数が減っていった。

ある時、鎧の注文があり、一般的な鎧櫃の大きさであれば何とか送れるのだが、横長の鎧櫃に駕籠付き、さらには屋根・天秤棒付きと大変立派な造りであったため、大きさの都合で航空便では受け付けてもらえなかった。致し方なく費用対効果が高かったＤ社の船便を利用した。何とか届いたものの、残念ながら脚部に一部ダメージを負ってしまった。船便は航空便に比べて安全性に欠けると思っていた方が賢明である。

なお、船便は荷物紛失率も航空便に比べ高いので、よほどのことでない限りお勧めはできかねる。

◎ＤＨＬの場合

二〇二〇年初頭、新型コロナウイルスの影響が流通業界に出始めた。頼みの綱であるＥＭＳがアメリカ宛ての輸出を、四月二十日から一斉に休止したのである。これは刀剣に限らず、ＥＭＳの一切のサービス休止であった。

アメリカ行きの旅客機の本数が極端に減ったためである。アメリカは日本からの刀剣輸出国第一位と言っても過言ではないと思うが、これでいよいよアメリカ宛ての輸出は八方塞がりとなってしまったのである。

同年六月ごろ、顧客の要望でアメリカ宛てに早急に発送したい物件があった、あまり利用のなかったＤ社を利用することになった。

インボイスにはもちろん刀剣と明記して集荷を頼んだ所、わずか三日で届いてしまった。筆者の知らない間に刀剣の取り扱いが解禁されたのかと喜び、その三日後、同じ宛先に別の刀剣を発送した。

その晩、Ｄ社から電話があった。刀剣は取り扱いできないので、荷物を返却すると言う。三日前は一体なぜ送れたのかと聞いたところ、集荷したドライバーが知識不足で、取り扱いが禁止されていることに気づかなかった。今回は、営業所から空港の倉庫に荷物を移動させる前に事態が発覚したのだという。

担当者が言うには、刀剣のような特殊な品物の場合、Ｄ社に限らず、こうした行き違いはしばしば発生するとのことである。

◎中国経由が不可のＵＰＳ

この年の夏ごろ、業者間でＵ社が使えるという話が上がった。筆者はそれまでＵ社の利用はなかったので、アメリカ宛ての刀剣輸出に利用可能かどうか調べた。

公式ウェブサイトには輸出規制品目の中に刀剣が含まれていたが、特殊契約を結ぶことにより、これを取り扱い可能とする文言が明記されていた。

早速コールセンターに電話すると、たまたま応対したオペレーターが悪かったのか、刀剣は扱えないだの、そんなことを書いてあるウェブページはないだの、滅茶苦茶だった。

あらためて営業所に電話すると、先ほどのオペレーターの言い分とは全く異なり、ウェブページに書いてある通りで、アメリカ宛てに刀剣の輸出は可能だが、特殊契約が必要とのことだった。

ここで要求されたのが、過去に輸出したサンプル二、三件である。具体的には、①インボイス、②輸出した登録証、③輸出鑑査証明書、である。

また、この特殊契約は送り先の国ごとに別途契約が必要になるため、アメリカ以外にも希望があれば先に知らせてほしいという。輸出の予定があったカナダ・ドイツ・スイス・シンガポール・オーストリアも併せて申請した。

担当者の話では、Ｕ社のアメリカ本社へ掛け合い、これが可能かどうか決定されるまでに早くて二週間、遅いと三カ月かかる時もあるとのことだったが、三週間かからないうちに返事がもらえた。結果はアメリカとカナダのみが可能だという。

二国以外はなぜダメなのかと聞くと、中国が原因だった。Ｕ社の飛行機便は、日本から西に飛ぶ便は全て中国を経由するので、一時的とはいえ刀剣の受け入れが許可されないとのことだった。

その後、特殊契約用の契約書が用意され、サインをし、程なくして出荷可能な状態となった。

◎刀剣の輸出状況は流動的

出荷の際には、Ｕ社公式ウェブ上から送り先の住所やインボイスの入力をし、プリンターで印刷したラベルなどを発送物に貼り付ける。この際注意したいのがオプション設定と保険である。

昨今では国内でも置き配（荷物を届ける際に、ポストに入らないものであってもドアホンで呼び出しせずに玄関に荷物を置いて配送完了とする）が普及してきたが、アメリカではごく一般的であり、オプションとして対面配達、受取人署名を選択しておかないと、いくら高額商品、ワレモノ貨物でも無惨に置き配されてしまうので要注意である。

保険は、他社に比べると非常に割高である。インボイスの表記額を上限に、任意の金額の補償額を設定できるが、保険料率は約一・一八％である。十万円の商品であれば千円強だが、百万円を超える保険だけで一万円以上かかるということである。なお、一つの荷物に対して、最高設定額は約五百万円までである。

これは後から知ったことだが、この特殊契約は法人専用である。筆者同様にアメリカ宛てで困っていた同業Ｍ氏にＵ社の詳細を伝えたが、特殊契約をしようとしたら個人事業主だったために断られたという。

これで過日のコールセンターでの一悶着も納得である。送り主が個人扱いになると営業所が付かないため、特殊契約も結べないという仕組みである。

この事実を知り、もしかするとＦ社でも法人契約して営業所が付けば刀剣輸出可能では？と考え、久々にＦ社に問い合わせをしたが、社内で情報が統一されていないようで、後日はっきりと決まり次第あらためてお知らせしたい。

この三月時点で、いまだにアメリカ宛てＥＭＳ再開の目処は立っていない。これからも刀剣に関する輸出案件は変更が予想されるので、情報の共有ができればと思う。有益な情報があれば、本紙編集委員会までぜひご一報頂きたい。

なお、本年一月一日からＥＭＳのラベル作成は手書き禁止となったので、その点も留意されたい。

《記　入　例》

古美術品輸出鑑査証明について（申請）

古美術品輸出鑑査証明の申請記入例

令和3年5月15日発行（隔月刊）　刀　剣　界　第59号

ブック・レビュー　BOOK REVIEW

東北の戦国武将たちの個性的な戦い方・生き方

『奥羽関ケ原―政宗の謀、兼続の知、義光の勇』

松永弘高 著　定価一六五〇円　朝日新聞出版

関ヶ原の合戦については、皆さまご存じの通り、家康が一日で決着を付けてしまったわけなのだが、これは大半の人々にとって予想外のことであり、戦の長期化を見込んでそれぞれの地域で作戦を立てていたはずなのである。

奥州関ヶ原とも慶長出羽合戦とも言われる戦も、まさにそうである。太閤豊臣秀吉亡き後、五大老の一人、陸奥会津百二十万石に封ぜられていた上杉景勝に、家康は再三上洛を求めるが、景勝はこれを拒み続けていた。家康は幼主秀頼を戴く豊臣家への謀反とし、自ら秀頼の名代として、豊臣家に従う天下の諸大名を率い、景勝を討つと決した。会津征伐である。

出羽・陸奥地方では、会津・米沢百二十万石の上杉景勝・直江兼続と、その北側に位置する伊達政宗五十八万石、最上義光二十四万石が注目される。

最初に申し上げるが、伊達政宗と最上義光は甥・伯父の関係であり、両家は戦と和議を繰り返してきた家なのだ。

政宗の旧領地は福島の中通地方と会津地方、および山形県の置賜地方（米沢を含む）、宮城県の南部を領し、百万石格であったろうと思われる。何しろ政宗は米沢生まれ、米沢育ちで、そこから前記の領地を奪ってきたのだ。

しかしながら、天正十八年（一五九〇）、秀吉の小田原征伐中に服属し、伊達家の本領七十二万石は安堵されたが、会津領は没収されてしまう。翌天正十九年には一揆の扇動者と疑われ、本拠地であった長井・信夫・伊達を含む六郡の代わりに、一揆で荒廃した葛西・大崎十三郡を与えられ、米沢城七十二万石から玉造郡・岩出山城五十八万石に減転封された。

個人的感想ですが、これでやっと福島県に伊達郡がある訳がわかりました。そして、この時点では仙台という地名もなく、青葉山という険しい場所があるだけという状態でした。

最上義光は若いころから出羽地方を統一しようとし、戦や謀略の日々を送ってきた。天正十六年には政宗と戦った大崎合戦において、義光が伊達を破っていたにもかかわらず、義光の妹にして政宗の母である保春院が自ら乗った駕籠を両軍の間に置かせて停戦を懇願したため、両者は和議を結んだ。

天下広しといえども、城を抜け出し、戦場に現れる大名の奥方は保春院のみであろう。

義光は天正十八年、秀吉の小田原征伐に参陣し、出羽二十四万石を安堵される。

しかし、その最上家に文禄四年（一五九五）、大きな悲劇が訪れる。次女の駒姫を側室として秀吉の甥、関白秀次に差し出すよう迫られたのである。秀次は十五歳になった駒姫を京に呼び寄せたが、嫁いで間もない駒姫を悲運が見舞う。

秀吉はこのころ、既に実子秀頼を得ていて、秀次の立場は揺らいでいた。

秀次は高野山に赴き、そのまま自害を遂げてしまった。生前、謀反を企んでいたとされ、その首は三条川原にさらされた。累は駒姫ら眷属に及び、秀次の首を前にして斬られ、弔いも許されぬままその地に埋められた。義光は家康の取りなしも頼み必死で助命嘆願したが、かなわなかった。

駒姫の生母、大崎の方の悲嘆は深く、駒姫の二七日の後に喉を突き、後を追った。この事件以後、秀吉に対する義光の憎悪は決定的となり、家康ら徳川方に与することとなる。

一方、上杉の会津・米沢勢だが、筆頭家老の直江兼続が米沢を支配しており、彼は伊達・最上を従え、徳川家康と戦うことを考えていた。

しかし、兼続は伊達政宗という男が大嫌いであった。その政宗に和を請うのはいやだが、伊達と最上に和睦を申し入れることによって両家を競わせれば、親族といえども一枚岩ではなく、抜け駆けは許さじと、話に乗ってくるのではないか、大義の前にはやむを得まい……。

三者それぞれの思惑が行き交う中、奥羽関ヶ原が起こるわけだが、結果はご存じの通り、最上義光が直江兼続に勝利し、庄内地方も手中に収め、二十四万石から五十七万石に出世。上杉景勝・直江兼続は、会津・米沢百二十万石から米沢三十万石に減転封。しかしながら、直江兼続の撤退戦は後世まで語り草となっている。本書には、前田慶次郎も登場して活躍するサービスシーンもある。

伊達は上杉との合戦で結果を出せず、おまけに南部領で一揆を扇動したことが露見し、結局、自力で落とした白石郡・刈田郡二万石を追認されたにすぎず、六十万石。

とにかく、一度この小説を読んでください。小生が書いたことなど、ほんの前段にすぎず、もっと面白いエピソードだらけの本です。

（持田昌宏）

古老に聴く　第二回

変わり兜

綱取 譲一

加藤左馬助嘉明取締役社長「皆、見てくれ。次に被る僕の兜のデザイン画だ」

一同「……」

副社長「イカですか？」

加藤社長「富士山だよ！」

企画部チーフデザイナー「銀色の兜から下、色はどういうコーディネートをお考えですか？」

技術部長「騎乗なさいますよね。材質は？　重量を考えてみましたか？　カドミウム値は？　投影面積ってご存じですよね」

総務部長「コストは？　ほかの社員の使用するものと大きく差が出ます」

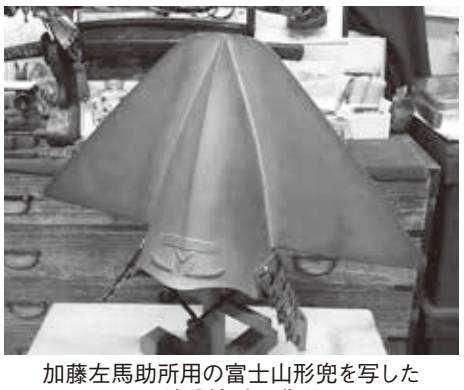
加藤社長「トホホ、何だか旗色悪くなってきたな」

こうして会議を介する末では、変わり兜は世に出てこなかった。パワハラ、ワンマン当たり前の社会で生まれてきたのが奇想天外の兜たちだ。何千もの軍勢の中だとしても、個人のアイデンティティをトレードマークのようにしていれば、目立って敵から狙われるリスクだって高い。そこをも押して大袈裟なデザインの兜を被った理由は実は、目撃証言を引き出すことにほかならない。

今日、スポーツ中継では映像をスロー再生し選手の技術に息を飲むが、戦国時代にそんな便利なものはない。「あのすごい兜を被ったやつが敵将を仕留めたぞ」という目撃証言が、主君の耳に届くよう目立つことが必要だったのだ。

さて、ここから古老聞き書きだが、平成二十年代に他界したMさんは腕利きの甲冑師。氏曰く「変わり兜？　あんなものは買っちゃだめだよ、偽物だらけだからね」と、ここまでは若かった俺に対する父親と同じ忠告。しかし、次の言葉に俺は言葉を失った。「僕が作ったものが相当あるからね」

そして氏は、著名コレクションの中にあるもの、某博物館にあるものを、自分の作品、または携わったものとカミングアウトしてくれた。この話の続きはまたいつの日か……。


加藤左馬助所用の富士山形兜を写した
三浦公法氏の作品

甲冑の話題――⑪

（一社）日本甲冑武具研究保存会

今回は、今年の二月にマール社から出版された『イラストでわかる日本の甲冑』という本を紹介します。

同書は一般社団法人日本甲冑武具研究保存会（以下、日甲研）の会員が、文中の語句や説明文、描写などの監修をしました。監修した会員は皆二十～三十代と年齢が若く、当会のホープたちです（笑）

この本は同社の他の書籍と同じく、絵画やイラストの手引きとして、甲冑や武具の絵を描く上で必要な情報や知識を紹介するという点に力が注がれています。甲冑をはじめ、刀剣や馬具などについても、各部品の基本構造や種類別の特徴を線描で読者にわかりやすく伝えるということに意識が置かれています。

例えば大鎧を着たキャラクターの絵を描きたいけれども、札板の形状は皆目わからず、梅檀板と鳩尾板の名称も位置も覚束ない、甲冑の威毛の構造や組紐の通し方も想像し難い、調査するための時間的金銭的余裕も少ない、という方には大変有用な本であると思われます。

また、著者の渡辺信吾氏による中世から近世の代表的な甲冑（絵画や文献のみにその存在を伝える幻の一領や、文化財指定を受けて実際の着用が困難な名品）を人物に着せた解説イラストのほか、日甲研の有志や西岡甲房様などのご協力も頂戴して掲載がかなった本歌資料の写真もあります。

監修に際しても、なるべく現段階での研究成果を盛り込みながら平易になるように努めましたので、絵を描くつもりがない方でもお読みになれば、さまざまに楽しんでいただけるものと思います。

昨年三月と五月に日本の甲冑の入門書としてお薦めの書籍を紹介させていただきましたが、その中に本書も加えたいと思います。

（一般社団法人日本甲冑武具研究保存会理事・佐々木亮、同評議員・山田怜門）

渡辺信吾著
『イラストでわかる日本の甲冑』

美術刀剣、小道具、武具類の売買、加工及び御相談承ります
大阪刀剣会
吉井唯夫
大阪市中央区日本橋二－七－一
TEL　〇六－六六三一－二二一〇
FAX　〇六－六六四四－五四六四

日本刀・刀装具
販売・買取
美術刀剣松本
松本 富夫・松本 義行
TEL.04-7122-1122
千葉県野田市清水199-1　刀剣松本　検索

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
㈱ 日本刀剣
伊波賢一　Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座日本刀ミュージアム
泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座 6－7－16
岩月ビル２階
㈱銀座泰文堂　代表 川島貴敏
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
http://www.taibundo.com

刀剣 髙吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください！
連絡先 090-8845-2222
代表者　髙島吉童
東京都北区滝野川７-16-６
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

令和3年5月15日発行（隔月刊）　刀　剣　界　第59号

NEWS & TOPICS

延寿・同田貫らの映像作品がお披露目

一般社団法人菊池観光協会（熊本県菊池市）は、昨年三月に「第四回菊池一族と延寿鍛冶展」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でやむなく取りやめとなった。地元熊本のみならず、九州の愛好家からも好評で、これまで三回を重ねてきたものの、現在は開催が不定期延期となっている。

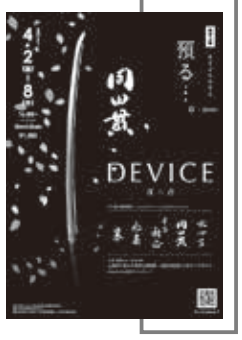
そこで、菊池一族と延寿鍛冶展をより多くに知ってもらおうと、菊池一族まつり実行委員会制作の熊本ゆかりの刀剣を紹介した映像作品『DEVICE日本刀』と『同田貫』の二作品を、『特別上映 預かる…。』と題してDenkikan（熊本市）にて四月二～八日、上映した。

ほぼ同時期に、熊本城ホールではミュージカル『刀剣乱舞』の公演があり、市内は突然の刀剣熱に見舞われていた。

上映作品の内容は次の通り。

【DEVICE日本刀】上映時間三十分

日本刀。その強靭さと鋭さは、戦の歴史とともに進化した。



蒙古襲来の折に活躍した菊池一族。その戦いを支えた延寿・同田貫の刀剣を解説し、そのルーツとなる来の刀も紹介。また妖刀で名高い村正や、新々刀の祖、水心子の一腰も収録。紹介刀剣は十振。

【同田貫】上映時間三十五分

明治の天覧兜割りで、その名を天下に知らしめた同田貫。肥州菊池住同田貫正国の銘が切られ、同田貫が菊池で打たれたことを伝える一振りの刀をスタートに、そのルーツを探る物語。

菊池一族第十代の菊池武房公が京都の鍛冶集団来派を菊池に招聘し、延寿から同田貫へとつながる歴史を時代背景とともに紹介する。そして物語は、菊池川流域の古代史へと遡っていく。

高感度カメラで撮影された十六振の刀剣が、美しい映像と解説で紹介される。

ふるさとの偉人・間宮林蔵

赤荻　稔

つくばエキスプレス守谷駅から東南に車で十分ほど走ると、つくばみらい市に入る。のどかな田園風景の広がる小貝川のほとりに、間宮林蔵の生家がある。隣には間宮林蔵記念館が併設されている。

林蔵は安永九年（一七八〇）に農家に生まれ、後に幕府の役人となり、探検家・測量家として偉大な業績を残した。幼少のころから神童と言われ、いくつかのエピソードが今も語り継がれている。

十代のころ、小貝川の堰普請を見学に通っていたが、そのうちに工事を手伝うようになり、度々進言した効果的な方策が幕臣村上島之丞に認められ、江戸に行くことになる。

そこで地理学・測量学を徹底的に叩き込まれ、士分に取り立てられ、十九歳の時に村上氏に従って初めて蝦夷地に渡った。当地には松前奉行が廃されるまで（一八二二年）二十四年間もとどまり、華々しい成果を上げている。その間、箱館に滞在していた伊能忠敬に会い、測量技術なども学んでいる。

再度の蝦夷地探検を敢行し、樺太の探査に成功したことはあまりに有名であるが、中でも蝦夷地全土を測量し、伊能の「大日本沿海輿地全図」の北海道部分を完成させたことは、最大の業績と言われている。

測量する姿の間宮林蔵像

北方に関する知識の乏しい当時の日本にあって、幕府にとっても避けて通れない国防に関わる重要な問題であり、林蔵の探査は命がけの任務であった。

後にシーボルトが「間宮海峡」と命名した樺太・大陸間の海峡最狭部は、今も世界地図で日本人の個人名が記載されている唯一の事例だそうである。

江戸に戻ってからも御庭番として幕府の重要な任務をこなし、水戸家の徳川斉昭ら著名人とも交流している。

司馬遼太郎は著書の中で林蔵を「彼は稀代の探検家として後世に知られる。測量もでき、政治情勢、風俗、民情を見る眼力もあり、観察した事物を表現しうる文章力、画才をもっていた。どんな環境でも眠る事ができ、食べ物も自然の中から採集して飢えをしのぐ事もできた……」と述べている。

林蔵の歿は天保十五年（一八八四）。四十四歳であった。

■**間宮林蔵記念館**＝〒300－2335 茨城県つくばみらい市上平柳六四 ☎〇二九七－五八－七七〇一 月曜休館

間宮林蔵の生家と記念館入り口

私が出会った珍品・逸品

土子　民夫

瓦釘　二本

長さ三三〇／三二〇ミリ　径一〇／八ミリ　先折れ

井垣謙三先生は、法隆寺の昭和の解体修理で出た古代の鉄釘が非常に健全で、そのまま再使用できるものであることを中学生のころに知り、朽ち果てぬ古代鉄に魅せられ、「和鉄はなぜ錆びにくいのか」を研究テーマとされた。

私が面識を得たのは、先生が東北大学を退官されてしばらく後だったが、和鉄への情熱は青年研究者のごとくであった。

同じころ、武蔵工大（現東京都市大学）の平井昭司教授が京都・西本願寺御影堂（えいどう）の瓦鉄釘について発表された。

西本願寺御影堂の瓦釘

御影堂は、寛永十三年（一六三六）年の再建だが、世界最大級の木造建築物で国宝に指定されている。寛政から文化にかけて屋根瓦の葺き替えを伴う大修理が行われ、約二百年後の平成十年（一九九八）からの十年間にも、再び大がかりな修復工事がなされた。その機会に、使用されていた瓦用鉄釘の材質や特性が調査されたのである。

釘は丸瓦の上から粘土を貫き、土台の垂木に打ち込んで瓦を固定する。その形状は、頭部がお椀を伏せたような半円形で、軸部は四角錘をなし、頭部に近いところは多少角を取って瓦を傷めない工夫が見られる。

長さは四〇センチ前後、中央部約一センチ角、重さは四〇〇グラム前後というから、釘としては最大級である。それが三千本以上も使用されていたという。

平井教授の分析によれば、材質は砂鉄を原料とした炭素量〇・四％以下の軟鉄～低炭素鋼に分類され、かつ不純物のきわめて少ない純鉄で、それは、出雲の包丁鉄を使用した可能性を示唆している。

なお、西本願寺境内から大量の鉄滓が出土しており、出雲地方で生産された鉄が運ばれ、境内で種々の用途に加工されていたことが推察されるとする。

不思議なのは、釘全体の炭素濃度は均一でなく、頭部と先端部だけが高く、つまりそこは硬く作られていることである。焼き入れは施されていないという。その結果、頭部は金鎚で叩いても変形しにくく、先は刺さりやすく、それでいて瓦を支える中央部は柔軟な、誠に具合のいい構造である。

今や包丁鉄を生産する大鍛冶の技も失われ、往時の釘鍛冶を偲ぶことさえ難しい。

西本願寺では、屋根瓦の総数十一万五千枚のうち、損傷のない七万五千枚を再利用したというが、四百年乃至二百年前の瓦釘についても防錆処理を施し、使用した。

さて、掲示の瓦釘である。御影堂のものに比べると頭部などの形状も異なり、一回り小さく、華奢に感じられる。桐箱が付き、表に「大仏殿回廊瓦釘」とある。

東大寺大仏殿の建立は天平にさかのぼるが、永禄十年（一五六七）に三好三人衆・松永久秀の乱によって焼け落ち、再建されたのは宝永に至ってのことという。

これに従えば、釘は三百年の星霜を経てきたことになる（本物と信じればであるが）。たかが釘、されど釘なのである。

東大寺大仏殿回廊瓦釘

古都の折々　4

若葉の頃

石井　理子

筆者は奈良県在住

ゴールデンウイークが明けた若葉の頃、私はいつも「外で遊びたい病」を発症する。

花粉症から解放され、Tシャツ一枚で過ごせるこの伸びやかさ。家に居る場合じゃない！ 仕事をしている場合じゃない！

さぼり気味だったジョギングも、重くなった身体に喝を入れるが如く走り出したくなる。

「どこに行こうかな？」

夫や友達を誘って気楽に行ける所。「そうだ、明日香（あすか）に行こう！」

そうなると話は早い。車や電車で三十分ほどで行ける、古代史の宝庫だ。石舞台古墳、高松塚古墳、飛鳥寺、橘寺、蘇我入鹿の首塚、そして甘樫丘（あまかしのおか）。日本史でお馴染みの場所ばかりだ。

これらの場所をゆっくり走り、おしゃべりをしつつ巡るマラニック（マラソン＋ピクニック）が最高に楽しい。たいてい十～十五キロに設定している。もちろん途中に美味しいお店を忘れずに。

このコースの中で一番好きなのが、甘樫丘から眺める風景だ。登りが苦手なので、いつもヒーヒーいいながら登る。必死に登り切ると、新緑のフレームに囲まれたような明日香に大和三山（畝傍山（うねびやま）、耳成山（みみなしやま）、香具山（かぐやま））を見渡すことができる。

風が吹き抜けて、汗だくの身体を冷ましてくれる。その瞬間のために登っているのかもしれない。

しばしの休憩の後、丘を降りてまた走り始める。と、そろそろ小腹が減ってくる。「ぼちぼちジェラート食べへん？」

丘登りの後のご褒美だ。いつも明日香村名産の苺「あすかルビー」のフレーバーと決めている。

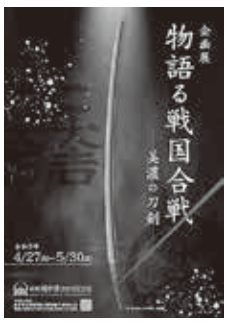
さあ、久し振りにゆっくり明日香に行こう。ジェラート屋さんで油を売らないように気をつけて。

（注）明日香と飛鳥の違いについて、明確な規定はありません。

甘樫丘から大和三山を望む

■岐阜関ケ原古戦場記念館
〒503-1501 岐阜県不破郡関ケ原町関ケ原894-55　☎0584-47-6070
https://sekigahara.pref.gifu.lg.jp/

企画展「物語る戦国合戦―美濃の刀剣―」



岐阜関ケ原古戦場記念館では、開館以来初の本格的な企画展「物語る戦国合戦―美濃の刀剣―」を開催します。

合戦とはいかなるものであったのか、また、戦国時代の合戦に使われた刀剣はその後どのように伝えられてきたのか。関ケ原の戦いから420年を経た現代にまで残る美濃刀や武器に関する古文書等を紹介し、その物語を読み解きます。

会期：4月27日㈫～5月30日㈰

■関鍛冶伝承館
〒501-3857 岐阜県関市南春日町9-1　☎0575-23-3825
https://www.city.seki.lg.jp/kanko/0000001558.html

企画展「慶長期と美濃刀 ～他国移住に見る関鍛冶の動向～」

関ケ原の戦いや大坂の陣が起こった慶長期という時代に着目し、その時代の関鍛冶の動向について、刀剣や資料32点から紹介します。すべて写真撮影可能となりますので、ぜひご覧ください。

会期：4月28日㈬～6月20日㈰

■上山城郷土資料館
〒999-3154 山形県上山市元城内3-7　☎023-673-3660
http://kaminoyama-castle.info/

企画展「上山城の刀剣・甲冑展」

上山藩ゆかりの刀剣・甲冑のほか、五月人形の展示も行います。期間中はさまざまなイベントも開催。「甲冑着用体験」や「刀剣にさわってみよう」など、普段なかなかできない体験ができる人気の企画など、子どもから大人まで楽しめます。

会期：5月1日㈯～6月20日㈰

■静岡県立美術館
〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2　☎054-263-5755
http://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/

忘れられた江戸絵画史の本流―江戸狩野派の250年

近年、江戸絵画人気は高く、さまざまな画家が紹介されていますが、江戸絵画史の本流を形成した江戸狩野派は、最も活躍した数人の画家を除いて、ほとんど知られていません。江戸狩野派は巨大な組織で、江戸時代に将軍家や大名の注文を受け、江戸画壇の中心で活躍した主要な画家だけでも、100人を優に超えます。

本展では、個人コレクターの所蔵する江戸狩野派作品を選りすぐり、彼らの知られざる魅力をご紹介します。展示では、江戸狩野派の基本的なスタイルを築いた奥絵師の作品だけでなく、民間画壇に接触し、江戸狩野派の画風に多様性をもたらした表絵師の作品にも注目し、江戸狩野派の幅広い展開をご覧いただきます。

会期：5月22日㈯～6月27日㈰

■熊本県立美術館
〒860-0008 熊本市中央区二の丸2　☎096-352-2111
https://www.pref.kumamoto.jp/site/museum/81018.html

開館45周年 感謝をこめて魅せます！美術館コレクション

令和3年（2021）3月4日、熊本県立美術館は昭和51年（1976）の開館から45年を迎えます。これを記念して、当館を支援いただき、育てていただいた方々への感謝をこめて、美術館コレクションえりすぐりの美術品を展示します。

当館は、古今東西の美術を網羅する総合美術館を目指して、コレクションの形成に取り組んできました。本展覧会では、それぞれの美術品に見られる「物語」や「構図」「色」「形」などのいくつかの要素を「魅（み）どころ」として取り上げ、コレクションの魅力に迫ります。

さらに、細川コレクションを所蔵する永青文庫からは、特別に国宝《太刀 銘 豊後国行平作》（通称「古今伝授の太刀」）と、国の重要文化財である菱田春草《落葉》、松岡映丘《室君》、平福百穂《豫讓》が登場します。

本展覧会が、45年にわたる美術館へのご支援に対する感謝の気持ちをお届けする場となれば幸いです。これからも熊本県立美術館をよろしくお願いします！

会期：4月3日㈯～6月27日㈰

■大阪歴史博物館
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32　☎06-6946-5728

古代の都 難波京

古代の飛鳥時代から奈良時代には、上町台地の北端に難波宮が設けられました。天皇の住まいであり、政治の中心である宮の周囲には、関係する人々が住む地域―京が広がります。難波宮の周りにも難波京という京がありました。この古代の都は現在では市街地の地下に埋もれ、その痕跡はほとんど残っていません。

大阪市内での発掘調査が進むにつれ、難波京に関わる資料も増えてきました。いずれも小面積の発掘調査ですが、その成果を積み上げることで、ようやく難波京の具体的な姿が見えてきました。

今回の展示では、難波京に関わる主な発掘調査の成果を紹介するとともに、これまでの難波京のさまざまな復元案を紹介し、古代の都の探索の過程を振り返ります。1000年以上前の古代大阪の姿に思いをはせていただければと思います。

会期：5月19日㈬～7月12日㈪

■岡山タカシマヤ（7階美術画廊）
〒700-8520岡山市北区本町6-40　☎086-232-1111
https://www.takashimaya.co.jp/okayama/

お守り刀特別展「願いを込めて」

林原美術館（岡山）、鉄の展示館（長野）、横浜髙島屋（神奈川）と各所で展示された全日本刀匠会主催「お守り刀特別展―願いを込めて」の凱旋展示です。今回販売も致します。

〈ごあいさつ〉古来より私たち日本人は、刀剣の中に多くのものを求めてまいりました。武器であることはもちろんのこと、刀身の中に現れた現象を自然界にある景色に見立て、その美しさを愛でたり、また、家族や一族の安寧や繁栄など、多くの思いを託す祈りの象徴のようなものでありました。この「お守り刀展」で現代の刀剣作家が祈りの思いを具現化した作品をご覧いただき、会場に足を運んでくださる方々の健やかな人生を願いたいと存じます。

会期：5月19日㈬～5月25日㈫　最終日は午後3時閉場

■毛利博物館
〒747-0023 山口県防府市多々良1-15-1　☎0835-22-0001　https://www.c-able.ne.jp/~mouri-m/

令和3年度展覧会開催予定

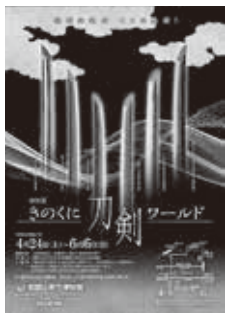
区分	企画名	会期	企画の概要
企画展	武者の美 ―毛利家伝来の武具―	令和3年4月24日㈯ ～5月23日㈰	“端午の節句”にちなみ、少年用の甲冑を中心にした「端午飾り」ほか、毛利家伝来の刀剣や具足をはじめ、大名家の男性たちが大切にした武具の名品を展示します。
企画展	幕末の萩藩主　毛利敬親	5月29日㈯～7月11日㈰	毛利敬親の没後150年を迎えるに当たり、敬親が萩（長州）藩主として、いかに藩政を担い、幕末の動乱を切り抜けたか、毛利家に残された敬親ゆかりの遺品などから紹介します。
企画展	毛利元就没後450年記念 毛利元就と戦国の動乱	7月17日㈯～9月5日㈰	毛利元就の没後450年を迎えるに当たり、戦国きっての智将として、動乱の渦中に、毛利家を西国最強の大名に育てた足跡を、毛利家伝来の元就自筆の書状などから紹介します。
企画展	廃藩置県と公爵毛利家の誕生	9月11日㈯～10月24日㈰	廃藩置県から150年を迎えるに当たり、廃藩置県において毛利家がどのような役割を果たしたか、廃藩置県後の公爵としての毛利家が、どのような役割を果たしたか紹介します。
特別展	国宝	10月30日㈯～12月5日㈰	国宝の雪舟筆「四季山水図」や「古今和歌集（高野切本）」をはじめとする国宝や重要文化財など、美術的にも歴史的にも優れたことで知られる毛利家伝来の逸品を一堂に公開します。
企画展	祝いの美 ―毛利家の正月飾り―	12月11日㈯ ～令和4年1月23日㈰	毛利家伝来の「正月飾り」をはじめ、正月にちなんで、福を招く吉祥の意匠が描かれた絵画や工芸品など、毛利家伝来の祝いを願う品々を展示します（12月22日～31日は休館）。
企画展	姫君ゆかりの美 ―毛利家のお雛さま―	2月5日㈯～4月10日㈰	“ひなまつり”にちなんで、華麗な「次郎左衛門雛」の段飾りをはじめ、毛利家伝来の雛道具や姫君ゆかりの華麗な衣裳・装身具・調度品など、女性にまつわる品々を展示します。

端午飾り（たんごかざり）（大正時代）　毛利博物館蔵
桜糸威小具足（さくらいとおどしのこぐそく）（根尾正信作・江戸時代）

令和3年5月15日発行（隔月刊）　刀　剣　界　第59号

催事情報

■和歌山県立博物館
〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14　☎073-436-8670
https://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp/



特別展「きのくに刀剣ワールド」

きのくに―和歌山県においては、南北朝時代以来、刀工が作刀するようになり、江戸時代にかけて、時代の順に入鹿鍛冶・粉河鍛冶・文珠鍛冶・石堂鍛冶という４つの主要な刀工の系譜が見られます。これら紀州の刀工による洗練された作品を中心に、寺社に奉納された刀剣も含め、名刀の数々、紀州の金工が製作した刀装具類を紹介します。なお、当館において刀剣をメインテーマにした特別展は、39年ぶりの開催となります。
Ⅰ. 入鹿鍛冶と粉河鍛冶　Ⅱ. 文珠鍛冶　Ⅲ. 石堂鍛冶と紀州の刀工
Ⅳ. 奉納された名刀　Ⅴ. 紀州の刀装具
会期：4月24日㈯～6月6日㈰

■きび美ミュージアム
〒710-0046 岡山県倉敷市中央1-4-22　☎086-434-3232
https://kibibi.or.jp/

吉備と出会う

文化薫る白壁の街並み、倉敷美観地区の「くらしき宵待ちGARDEN」内に、2021年４月29日に開館したきび美ミュージアムは、「吉備と出会う 吉備に恋をする」をコンセプトに、郷土ゆかりのさまざまな文化財の展観を通して、先人たちが遺した優れた技や知恵、美意識や世界観を今に伝えます。気持ちが塞がれるような時にも、吉備の文化の風に吹かれ、心潤す憩いのひとときをお過ごしください。

■徳川美術館
〒461-0023　愛知県名古屋市東区徳川町1017　☎052-935-6262
https://www.tokugawa-art-museum.jp/

特別展「名刀紀行―京・大和と九州―」

古くから日本各地で刀剣が生産されてきましたが、中でも山城・大和は都が置かれたことから、貴族や寺院の需要に応じて作刀が盛んに行われました。また大和の刀工たちの作風は、九州の刀工たちの作風に少なからぬ影響を及ぼしました。山城・大和を中心とした機内の刀工の作品や、九州の刀工の作品を紹介します。
会期：6月5日㈯～7月11日㈰

■白山市立博物館
〒924-0871 石川県白山市西新町168-1　☎076-275-8922
http://www.hakusan-museum.jp/hakubutukan/

特別展「生誕100年記念 隅谷正峯―思いは鎌倉期に漂いて―」

故隅谷正峯師の卓越した技量を紹介するとともに、鎌倉時代を中心とした古作を目指し、作り上げた作品の数々を展示します。５月22日㈯には宮入法廣氏による講演「師隅谷正峯を語る」を開催します（要事前申し込み）。
会期：4月24日㈯～6月6日㈰

■刀剣博物館
〒130-0015 東京都墨田区横網1-12-9　☎03-6284-1000
https://www.touken.or.jp/museum/

日本刀の見方パートⅢ 刃文 リターンズ

昨年「日本刀の見方」シリーズ第３弾の「刃文」展につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、会期の短縮を余儀なくされました。そこでこの度、一部展示品を更新して新たに開催します。各種刃文の典型的作品を示しながら、壁面ケース全ての刀剣には原寸大の全身押形を添え、加えて、刃文の製作方法や押形を用いた記録方法等、刃文に付随した多角的なテーマに沿って展示します。刀匠の技の結晶である刃文の美を、どうぞご鑑賞ください。
会期：4月17日㈯～7月11日㈰

■柏原美術館
〒741-0081 山口県岩国市横山2-10-27　☎0827-41-0506
https://www.kashiwabara-museum.jp/

激動―歴史を動かした男たち―

会期：3月22日㈪～5月27日㈭

会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。
現下の状況で入場制限もありますので、ホームページをご覧ください。

■星と森の詩美術館
〒948-0101 新潟県十日町市稲葉1099-1　☎025-752-7202
http://www.hoshi-uta-m.jp/

館蔵刀剣展　江戸時代の刀

町人文化が花開いたこの時代、各藩の武士を相手とする抱え工（藩工）だけでなく、江戸や大坂などの大都市には市井の刀工も現れるようになりました。個性を競う時代の刀をお楽しみください。
会期：4月1日㈭～6月6日㈰

■高知城歴史博物館
〒780-0842 高知市追手筋2-7-5　☎088-871-1600
https://www.kochi-johaku.jp/

特別展示「ジョーハク 刀剣 強化月間」

GWを挟む２カ月間、土佐藩主山内家ゆかりの名刀、一国兼光・今村兼光・国時・康光を一堂に展示します。新作の音声ガイドのナレーターは高知県出身の小野大輔さん。刀の見方や見どころをやさしく解説します。
会期：4月16日㈮～6月14日㈪

■靖國神社遊就館
〒102-8246 東京都千代田区九段北3-1-1　☎03-3261-8326
https://www.yasukuni.or.jp/yusyukan/

特別展「靖國神社と刀剣―所蔵刀にみる大和魂―」（後期展示）

今日の遊就館では、戦歿者にまつわる遺書や遺品などを主たる展示品として御祭神のご遺徳を顕彰しておりますが、明治15年開館以来の草創期から先の大戦期までは軍事博物館としての性格が色濃く、そのほとんどの展示品が兵器や武具甲冑・刀剣類でありました。

一方この時期、明治から昭和初期にかけての造刀は、時代の移り変わりとともに、徐々に変化を余儀なくされたといわれています。こうした状況を改善しようと、昭和７年には財団法人日本刀鍛錬会が結成され、翌年には日本刀の文化保存に縁の深い靖國神社境内に鍛錬場が建設されました。

現在、茶室「行雲亭」となっているこの鍛錬場では、鑪製鉄の復興とともに、日本古来の鍛錬法により実戦にも耐えうる日本刀が打ち出されたのです。「靖國刀」として製作された8,100振余の日本刀は、御下賜刀や靖國神社の宝剣あるいは将校の軍刀として頒布されました。

古来より美しさと神秘性を秘めた日本刀は、神の依り代として、また神宝として神社に納められてきました。当神社におきましても創建以来、数多くの宝剣や軍刀、さらにはいわゆる名刀等を所蔵してまいりました。この度の特別展では、通常は展示空間の制約からご覧いただけないこうした刀剣類を広く公開致します。

国内外の多くの人々に日本文化の粋を集めた造形に触れていただくとともに、所蔵刀に込められた大和魂と伝統文化への関心がさらに高まることを期待して、本特別展を開催します。
会期：3月6日㈯～12月5日㈰

■備前長船刀剣博物館
〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966　☎0869-66-7767
https://www.city.setouchi.lg.jp/site/token/

テーマ展「戦後の刀剣―赤羽刀のあゆみ―」

赤羽刀は、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）が、日本国の武装解除を目的に戦後関東一円を中心に集めた20万口とも言われる接収刀剣のうち、保存がなされた約５千口（4,576口）のことを指します。

赤羽刀の多くは、東京国立博物館において保管されていましたが、平成７年（1995年）に成立した「接収刀剣類の処理に関する法律」を基に、平成11～12年（1999～2000）にかけて活用を行うことを目的に、国から各地の公的施設・機関へ無償譲渡されました。それは、文化庁より各都道府県教育委員会を通じて受け入れ希望調査に基づき、配布されました。

今回の展示では、GHQが処分を目的に接収された刀剣たちが、どのようにして、赤羽刀として保存され、どういう経緯を経て国から各地に渡ることになったのかなど、不死鳥のごとく甦った赤羽刀を展示するとともに、その歴史について紹介します。
会期：4月10日㈯～6月6日㈰

■石川県立歴史博物館
〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1　☎076-262-3236
https://ishikawa-rekihaku.jp/

夏季特別展「大加州刀展」

加州刀工の魁として知られるのが南北朝時代に活躍した「真景」や越前から移住してきた「藤嶋友重」です。また、室町時代中ごろから江戸時代を通じ連綿と続いた「清光」歴代も見落とせません。加えて、江戸時代初期には美濃から「兼若」が当地に移り、変化の多い相州伝や華麗な備前伝を取り入れ「加賀正宗」の名声を得て一世を風靡し人気を博し、その作風は他の刀工たちにも影響を与えました。

本展は、古刀期から新々刀期までの加州刀を系譜別、年代別に80余点で俯瞰し、その魅力の神髄を探る目的で開催するもので、併せて拵の逸品も公開します。
会期：7月22日㈭～9月12日㈰

印刷／株式会社キタジマ